

令和2年度事業報告書
(簡略版)

社会福祉法人誠友会

〔1〕 概要

1. 法人及び施設の概要

(1) 法人

- ① 法人名 社会福祉法人誠友会
- ② 所在地 千葉県佐倉市岩名1011番地
- ③ 代表者 理事長 竹内 淳
- ④ 設立年月日 昭和63年11月4日
- ⑤ 目的 多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。

⑥ 役員 8名 令和3年3月31日現在

役職名	氏名	住所	公職等
理事長	竹内 淳	〒285-0011 佐倉市山崎 368	誠友会統轄施設長
常務理事	竹内久美子	〒285-0011 佐倉市山崎 368	はくすい保育園 施設長
常務理事	安宅 香織	〒264-0025 千葉市若葉区都賀 3-1-20-304	特養佐倉白翠園施設長
理事	木村 正久	〒285-0015 佐倉市並木町 243	木村医院 医師
理事	鈴木敬一郎	〒286-0047 成田市江井須 220-81	特養栄白翠園施設長
理事	寺田 純子	〒286-0047 佐倉市宮ノ台 5-12-8	佐倉市社会福祉協議会理事
理事	岩淵 康雄	〒264-0025 東京都杉並区梅里 2-15-9	佐倉中央病院 病院長
監事	佐藤 満	〒284-0008 四街道市鹿放ヶ丘 305-2	元四街道市福祉サービス部長
監事	井戸川員三	〒284-0001 四街道市大日 470-36	千葉県四街道市監査委員

⑦ 評議員 7～9名

役職名	氏名	住所	公職等
評議員	大久保靖夫	〒270-1516 栄町安食 3660	NPO法人 栄町観光協会理事長
評議員	中野いく子	〒285-0025 佐倉市鐺木町 235	(一財)社会福祉研究所 理事
評議員	櫻井 肇	〒285-0011 佐倉市山崎 500-1	前佐倉市内郷地区社会福祉協議会会長
評議員	峰村 愛子	〒285-0034 佐倉市千成 1-20-4	ボランティア代表
評議員	田代 道郎	〒112-0002 東京都文京区小石川 3-16-8	元入所者家族代表
評議員	萩原 勝世	〒285-0812 佐倉市城 203-2	松ヶ丘防犯グループ会長
評議員	穴原 昌弘	〒270-1515 栄町安食台 2-5-17	栄町民生・児童委員協議会顧問
評議員	西原 弘明	〒285-0850 佐倉市西ノカリが丘 1-24-1	社会福祉法人愛光 理事長
評議員	堀井弥奈子	〒135-0063 東京都江東区有明 1-2-11-504	㈱佐倉自動車学校 代表取締役社長

⑧ 評議員選任解任委員 3名

役職名	氏名	住所	選出分野
監事	佐藤 満	〒284-0008 四街道市鹿放ヶ丘 305-2	誠友会 監事
事務局	小笠原 健	〒284-0001 四街道市大日 2208-1	特養佐倉白翠園 生活相談室室長
外部委員	野口 恭義	〒285-0861 佐倉市臼井田 1029	元誠友会理事・評議員

2 会議開催状況

(1) 理事会 全5回 評議員会 全3回

主な議題

定款変更、事業報告、事業計画、予算、決算、定款、各種規程変更、補欠評議員、役員
人事・理事選任について

(2) 評議員選任・解任委員会 全1回

(2) 苦情処理委員会開催状況 全2回

(3) 合同経営会議 全11回

2 佐倉白翠園

佐倉市内高齢者施設等でのクラスター等発生に伴う在宅サービス利用者への受け入れ対応や職員の体調不良時への対応に憂慮した。情報収集や知見に基づき、思考停止せずに職員一丸となり一つ一つ課題に取り組んだ結果、在宅サービスの稼働率は低迷したものの陽性者を1名も出すことなく終わることができた。職員の努力がこの成果につながっている。

このコロナ禍で職員が肌で感じた「豊かさを失わない配慮」。フェース to フェースを大事にし
ながら、出来る範囲ではあったが、入所者ご家族及び地域等との繋がりも維持出来た。

[1] 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

1 指定施設サービス内容 定員64名

2 会議等

所属長会議（全41回） 給食委員会（全11回）

職員全体会議（全2回） 衛生委員会（全12回）

経営会議（全12回） 感染症対策委員会（全12回）

看護会議（全12回） 行事委員会（全12回）

介護会議（全体会議2回） 入所（入居）検討委員会（全12回）

介護リーダー会議（全11回）

※ 事故防止委員会、安全対策委員会、褥瘡対策委員会、虐待防止委員会同日開催
個別処遇会議（全29回）

3 防災

(1) 防災訓練実施日及び内容 全12回

4 ボランティア活動

(1) ボランティア活動年間延べ35人（前年度 671人） ※来園ボランティア活動数のみ

(2) ボランティア懇談会 全2回

5 地域交流事業 全6回 ※非対面交流含む

6 実習生受け入れ状況 年間実人数 4名 延べ人数 40人 延べ日数 25日
福祉・医療系 教育系等

7 各部門

【生活相談室】 正職1名

入退所は月平均1件程度で安定した稼働率を維持出来た。また、特養転換をして2年目となり、職員も転換後の体制に慣れ、処遇が充実してきていることも安定した稼働率維持の要因となっている。

(1) 年間平均稼働率 96.2%（前年度 95.6%）

(2) 平均介護度 4.06（前年度 4.0）

(3) 平均年齢 85.3歳（前年度 85.4歳）

【看護室】 加算配置 1 名 正職 1 名 嘱託・パート：6 名（ショート・デイ・ユニット兼務）

感染対策に努め、感染症の流行は見られなかった。個々の持病の悪化による受診、入院が増加した。

- (1) 病院受診状況 年間延べ 540 名 (前年度年間延べ 751 名)
- (2) 入院状況 年間 39 名 (前年度年間 34 名)
- (3) 死亡者数 年間 8 名（園内看取り 6 名） (前年度 10 名)

【栄養室】 配置正職 1 名（ショート・デイ・保育兼務）

昨年に続き全体的な食レベルが低下。ペースト食の割合が 22% となり、そのうち 8 割が減量での提供となっている。減量提供の増加に伴い栄養補助食品の使用率が 45% となった。栄養管理面では高リスク者の増加があったが、他職種との連携により低リスク者の割合も増加させることができた。感染症対策も考慮し、防災備蓄の見直しを行った。

【介護部】 正職 17 名（内介護短時間 1 名） 嘱託・パート 17 名（ショート担当兼務 6 名）

特養入所者が家族と一緒に過ごせる看取り室を新たに一室整備し、看取り後のグリーンケアも意識した看取りケアの環境整備を行った。

- (1) 年間行事参加人数（SS 含） 701 名（前年度 789 名）
- (2) 年間誕生会参加人数（SS 含） 58 名（前年度 696 名）
- (3) 年間クラブ・レク実施状況（SS 含） 64 回（前年度 116 回）
- (4) 精神スケール調査

令和 3 年 3 月 1 日～3 月 30 日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	平成 31 年度	令和 2 年度
非認知症	21 点以上	4	3
認知症	20 点以下	42	42
調査不可能	—	17	15
未調査	—	1	2
合計	—	64	62

[2] 特別養護老人ホーム（ユニット型介護老人福祉施設）

1 指定施設サービス内容 定員 50 名（1 ユニット 10 名×5 ユニット）

2 会議等 ユニットリーダー会議 全 9 回

※ 事故防止委員会、褥瘡対策委員会、行事委員会同日開催
ユニット会議（全 11 回） 個別処遇会議（全 40 回）

3 ボランティア協力状況 年間延べ 2 名（前年度 95 名） 感染対策のためほぼ受入れなし。

4 各部門

【生活相談室】 正職 1 名

例年より退居者と入院者が多かった。特に上半期は入院と退居が一度に重なったこと等により稼働率が大幅に低下した。一方で加算の安定的な算定により、稼働額は上昇した。

- (1) 年間平均稼働率 95.0%（前年度 95.7%）
- (2) 平均介護度 3.78（前年度 3.69）
- (3) 平均年齢 89.7 歳（前年度 89.2 歳）

【看護室】 加算配置 1 名 正職 1 名 嘱託・パート：6 名（ショート・デイ・ユニット兼務）

感染症の流行は見られなかった。個々の持病の悪化による受診入院が増加した。重度化により園内看取りの増加がみられた。

- (1) 病院受診状況 年間延べ 427 名 (前年度年間延べ 647 名)
- (2) 入院状況 年間 49 名 (前年度年間 33 名)
- (3) 死亡者数 年間 12 名（園内看取り 7 名） (前年度 9 名)

【栄養室】 正職兼務1名

ユニット型は常食を基本とし、入居者の目の前で刻む食事提供を実施。全体的な食レベル低下がみられ、超きざみ食の割合が31%、ペースト食の割合は23%となった。昨年に続き、水分トロミ付き対応の割合は増加している。

【介護部】 正職21名（内産休1名）、パート13名

前年度から見られていた入居者のレベル低下傾向により入退院を繰り返す方が多く見られ、退居者も多かったこともあり稼働率に影響した。感染対策を継続的に実施することで、園内から陽性者を出さずに済んだ1年だった。

- (1) 年間行事参加 27回（前年度27回）
- (2) 年間誕生会回数 30回（前年度32回）
- (3) 精神スケール調査

令和3年3月15日～3月31日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	平成31年度	令和2年度
非認知症	21点以上	3	1
認知症	20点以下	37	26
調査不可能	—	8	15
未調査	—	2	6
合計	—	50	48

[3] ショートステイサービス（短期入所生活介護事業）

1 指定居宅サービスの内容 定員10名

2 会議等 ショートステイ会議 全5回

3 各部門

【生活相談室】 正職1名（従来型介護職員兼務）

新型コロナウイルス感染症対策による自粛や利用者の施設入所（従来型・ユニット型特養や他施設）が多くあり、全体的に稼働率が低下した。

年間平均稼働率 85.5% 平均利用 8.5名
（前年度 88.4% 8.8名）

【看護室】 加算配置1名 正職1名、嘱託・パート：6名（ショート・デイ・ユニット兼務）

長期利用者が減少、医療行為実施者の複数名利用があった。

- (1) 年間医療行為利用者 述べ193名（前年度 0名）

【栄養室】 正職1名（従来型・デイ・保育兼務）

常菜・一口大での提供数が多く、全体的な食レベルの低下はみられなかった。新型コロナウイルスの兼ね合いにより、オヤツ作りは実施できなかった。

【介護部】 従来型に準ずる。

[4] デイサービスセンター（通所介護事業）

1 指定居宅サービス内容

通常規模型通所介護（定員）月曜～土曜：25名

2 会議等 デイ会議 全10回※新型コロナウイルスの兼ね合いにより4月、5月中止

3 ボランティア協力状況 年間延べ0名（前年度267名）

4 実習生受け入れ状況 年間実人数 0名 延べ日数 0日 医療系、介護系

5 各部門

【生活相談室】 専任正職1名 兼務2名

4月緊急事態宣言を受けて、利用自粛のお願いをした事で稼働率は大幅に減少。宣言解除後も5月～8月の間は新規利用者を獲得できず、施設見学が難しい中、動画やホームページ等ITを活用した営業活動を実施した。

- (1) 稼働率 通常・予防型 年間平均稼働率 66.0% 平均利用 16.4名/日
(前年度 74.5% 19.5名/日)
- (2) 平均年齢 85.5歳 (前年度 85.8歳)
- (3) 新規利用者数 通常型 13名 (前年度 8名)
- (4) 中止者数 通常型 24名 (前年度 15名)

【看護室】 嘱託・パート：5名 (従来型・ショート・デイ・ユニット兼務)

- (1) 年間運動器機能 年間 0名 (前年度 2名)
- (2) 医療行為件数 年間 延べ人数 0名 (胃瘻、バルン留置者)

【栄養室】 正職1名 (従来型・ショート兼務)

おやつ作りを栄養室運営にて実施。

行事食実施状況 季節の行事ごとに実施 端午の節句、クリスマスメニュー等

- ① オヤツ作り 1回

【介護部】 正職2名 (内1名兼務) 嘱託、パート10名 (内1名兼務)、

園内外活動状況 (園外) 0回

(園内) 行事やレクリエーション、クラブ活動並びに誕生会毎月

6 介護者のつどい (佐倉市委託事業) 全4回 ※新型コロナウイルスの影響により4回中止

7 通所型サービス (佐倉市委託事業) 全22回 農園教室
参加者延べ117名 ボランティア55名

[5] ケアサービスセンター

7月迄 特定事業所加算Ⅲ 8月から特定事業所加算Ⅱ

8月から正職4名体制、利用者受け入れ人数増と加算アップが報酬に繋がっている。

- 1 利用規模 7月迄 117名 8月から 156名 ※支援1.2事業対象は2名で1名
- 2 会議等 ケアマネ会議 全51回
- 3 職員数 7月迄正職3名 8月から正職4名
- 4 利用状況

新規プラン受付 年間102件 (前年度42件)

年間利用件数 支援等 398件 (前年度499件) 平均33件/月
要介護 1280件 (前年度1087件) 平均107件/月

3

栄白翠園

コロナ禍の経験を活かしつつ、いくつかの事にチャレンジした一年だった。事業全般安定した結果を残せたが、新たな課題も生まれた。また、職員関係は年度末にコロナ関連による中堅職員の退職があったが、1年を通して概ね落ち着いていた。

[1] 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

1 指定施設サービス内容 定員50名

2 会議等

所属長会議（全52回）	給食委員会（全12回）
職員全体会議（全2回）	衛生委員会（全12回） 安全対策委員会（全12回）
経営会議（全12回）	感染症対策委員会（全12回）
看護会議（全12回）	行事委員会（全12回）
介護部職員会議（全12回）	施設・在宅合同リーダー会議（全11回）
個別処遇会議（全22回）	入所検討委員会（全12回）
褥瘡対策委員会（全12回）	身体拘束適正化検討委員会（全4回）

3 防災

(1) 防災訓練実施日及び内容 全12回

4 ボランティア活動 年間延べ0人（前年度 272人）

5 地域交流事業 0回

6 実習生受け入れ状況 年間実人数1名 延べ人数1人 延べ日数5日 介護系

7 各部門

【生活相談室】 正職1名

- ・4月、10月、11月は入院や退所が多く稼働率が低下したが、その他の月では高稼働率を維持できたため、年間平均では前年度よりも0.2%上昇した。
- ・入退所件数は21件と過去最多であったが、医療機関や居宅介護支援事業所と連携を図ることで空床日数を抑えることができた。
- ・入所者の重度化に伴い園での看取り件数も増加し、コロナ禍における看取り対応を模索した。

(1) 年間平均稼働率 96.8%（前年度 96.6%）
(2) 平均介護度 3.93（前年度 3.91）
(3) 平均年齢 87.4歳（前年度 88.0歳）

【看護室】 正職：2名（1名デイ兼務） パート：2名（1名デイ兼務）

- ・コロナ禍による感染予防対策をしっかりと行った結果、入所者、職員の健康面においても良い影響を及ぼし、受診件数の減少に繋がった。
- ・嘱託医2名体制になったことでより密接な連携や情報共有ができ、今まで以上の看取りも行えるようになった。

(1) 病院受診状況 年間延べ466名（前年度年間延べ826名）
(2) 入院状況 年間 17名（前年度年間 23名）
(3) 死亡者数 年間 17名（前年度 11名）

【栄養室】 正職1名（ショート・デイ兼務）

食事形態の面では、昨年と比較し、刻み・ミキサー食の割合が増加し、レベルが低下している。コロナ禍であっても季節感を感じていただけるような食事の提供をした。また、感染症発生時のシミュレーションをおこなった。

- ・ 主食 米飯：45%、全粥(ミキサー粥)：45%、パン：10%
- ・ 副食 常菜(一口大)：27%、荒(きざみ)：49%、極小(ミキサー)：16%

【介護部】正職 15名(ショート担当2名) 嘱託・パート9名 派遣1名

コロナ禍の状況に応じて行事等カリキュラムの縮小や見直しを行った。また、入所者の重度化に合わせた個別処遇も引き続き検討した1年となった。

- (1) 年間行事参加人数(ショート含) 393名(前年度582名)
- (2) 年間誕生会参加人数(ショート含) 488名(前年度621名)
- (3) 年間クラブ・レク実施状況(ショート含) 36回(前年度25回)
- (4) 精神スケール調査

令和3年2月1日～2月28日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	令和元年度	令和2年度
非認知症	21点以上	3	0
認知症	20点以下	32	32
調査不可能	—	10	17
未調査	—	5	1
合計	—	50	50

[2] ショートステイサービス(短期入所生活介護事業)

1 指定居宅サービスの内容 定員10名

2 会議等 ショートステイ会議 全12回

3 各部門

【生活相談室】 正職1名(介護支援専門員兼務)

- ・ コロナ禍による利用の見合わせや、他施設への入所等があったが安定した稼働率を維持することが出来た。
 - ・ 重度認知症や医療ニーズの高い利用者(経管栄養、褥瘡等)の受け入れを積極的に行った。
 - ・ 年間送迎回数1,189回で前年度と比較して約300回増。
- (1) 年間平均稼働率 87.1% 平均利用 8.7名
(前年度 91.4% 9.1名)

【看護室】

- ・ 積極的に医療ニーズの高い利用者(経管栄養、褥瘡等)を受け入れ、定期的な利用に繋がった。
- (1) 年間医療行為実人数5名 延べ 202回(前年度111回)

【栄養室】 正職1名(特養・デイ兼務)

昨年と比較し、経管栄養の占める割合が増加した。また、季節感を感じていただけるよう、Liveキッチン企画を引き続き行った。

- ・ 主食 米飯：76%、全粥(ミキサー粥)：23%、パン：3%
- ・ 副食 常菜(一口大)：65%、荒(きざみ)：20%、極小(ミキサー)：9%

【介護部】 従来型に準ずる

前年度のコロナ禍による経験を活かし、Liveキッチンを参加型から見学型にすることで、季節を感じられる催しを実施することが出来た。

[3] デイサービスセンター(通所介護事業)

1 指定居宅サービス内容

通常規模型通所介護(定員) 月曜～土曜：25名

2 会議等 デイミーティング 全 12 回

3 ボランティア協力状況 年間延べ0名 (前年度 1 名 (洗車) 延べ回数 19 回)

4 各部門

【生活相談室】 正職2名 (1名兼務)

前年度より新規利用の受け入れを多く行うことが出来たが、コロナ禍により利用を控える方もいたため稼働率に影響した

稼働率 通常・総合 年間平均稼働率 69.4% 平均利用 17名/日
(前年度 72.9% 19名/日)

- (1) 平均年齢 89.2 歳 (前年度 84.8 歳)
- (2) 新規利用者数 通常型 26 名 (前年度 22 名)
- (3) 中止者数 通常型 18 名 (前年度 12 名)

【看護室】 正職 1 名 (特養と兼務) パート: 1 名

感染防止対策を徹底し健康管理に留意した。また、リハビリによる ADL の維持向上に力を入れた。

- (1) 医療行為実人数 3 名 延べ 胃瘻 99 回 バルン留置 23 回

【栄養室】 正職 1 名 (特養・ショート兼務)

事業対象者 C 型デイサービスの参加者が増加し、栄養指導・配布プリントも好評だった。毎月実施する誕生会にて、手作りケーキを提供した。

- ・ 主食 米飯: 90%、全粥(ミキサー粥): 8%
- ・ 副食 常菜(一口大): 88%、荒(きざみ): 8%、極小(ミキサー): 2%

【介護部】 正職 1 名 (兼務) 嘱託・パート: 7 名 派遣 1 名

感染防止対策等を徹底しつつ、季節を感じられる企画やレクリエーションを実施した。また、個別機能訓練にも注力した。

[4] 在宅介護支援センター (委託事業)

町外からの相談は計上していないが、全体的にコロナ禍の影響が相談件数は少ない印象。家族の疾病や3割負担等がネックとなり介護保険利用とはならず、インフォーマルサービスの導入にて継続支援中という今までにないケースがある。

- 1 利用規模 栄町全域
- 2 職員数 居宅介護支援事業所と兼務
- 3 利用状況 対応件数 30 件 (前年度 34 件)

[5] ケアサービスセンター

コロナ禍であっても新規利用者数は前年度とほぼ変わらない。傾向として要介護 2、3 の利用者が増えている。

- 1 利用規模 介護給付 68 名 予防給付 22 名
- 2 会議等 ケアサービスセンター会議 全 12 回
- 3 職員数 正職兼務 2 名 (うち 1 名は短期入所生活介護事業相談員を兼務)
パート兼務 1 名

4 利用状況

新規プラン受付 年間 33 件 (うち予防給付 6 件) (前年度 32 件 (うち予防給 11 件))

年間利用件数 要支援 203 件 平均 16.9 件/月 (前年度 212 件)
要介護 786 件 平均 65.5 件/月 (前年度 725 件)

4 松ヶ丘白翠園

[1] サービス付き高齢者向け住宅

今年度は、ケアマネ・病院・行政・紹介業者等からも含めて多方面からの入居申し込みを受け入れ、年度末には24名入居となった。松ヶ丘白翠園カルチャー館利用者は24名中10名、松ヶ丘白翠園スポーツ館利用者は10名となっている。

在籍中に状態変化が見られた入居者については、医療機関やケアマネと連携して処遇の調整を行っている。

1. サービス内容 定員 26名 (26戸)
2. 会議等
職員全体会議 全3回 処遇会議 全5回
3. 稼働率 79.8% (前年度 68.5%)
4. 平均年齢 85.4歳 (前年度 84.4歳) 平均介護度 1.1 (前年度 0.9)

[2] デイサービスセンター

- 1 指定居宅サービス内容 大規模型通所介護Ⅱ
(定員) 月曜～土曜：50名
(内、スポーツ館 (本体事業所) 25名/カルチャー館 (サテライト事業所) 25名)

- 2 会議等
経営会議 全6回
スポーツ館介護会議 全8回 カルチャー館介護会議 全8回

3 防災

- (1) 防災訓練実施日及び内容 全10回

- 4 ボランティア協力状況 年間延べ78名 (前年度421名)

- 5 介護予防拠点事業 ※新型コロナウイルスの関係で未実施。

6 各部門

【生活相談室】 専任正職 1名 兼務 1名

新型コロナウイルスによる利用自粛等による利用者減少があり、営業活動もほとんどできない状況だったが、サ高住入居者の利用増や、ケアマネ事業所との連携の中で新規利用者の獲得ができた事もあり、稼働率は前年度並となった。

- (1) 稼働率 通常・総合 年間平均稼働率 70.4% 平均利用 35名/日
(前年度 70.3% 36名/日)

- (2) 平均年齢 83.6歳 (前年度 83.0歳)

- (3) 新規利用者数 通常・総合 14名 (前年度 62名)

- (4) 中止者数 通常・総合 29名 (前年度 26名)

- (5)

【看護室】 パート 3名 (佐倉白翠園兼務 2名) 派遣 1名

サテライト型の利点を活かしてスポーツ館・カルチャー館を総合的に対応している。サ高住入居者の健康相談も実施。

- (1) 年間運動器機能 年間延 338名 (前年度 451名)

【栄養室】 正職2名 パート7名

正職2名体制となり、業務体制の整備ができた。感染症対策への配慮をしながら、行事食や、年度末には調理クラブを実施した。

- (1) 季節に合わせた行事食を年間14回実施。
- (2) カルチャー館の調理クラブを年間1回実施。

【介護部】 正職2名 嘱託1名 パート9名 派遣1名

新型コロナウイルスの関係で、スポーツ館・カルチャー館両館合同企画は未実施。長期利用者を中心に重度化が見られ始めている中で、両館の特徴を活かしたADLの維持・向上に取り組んでいる。

- 園内外活動状況 (園外) 新型コロナウイルスの関係で未実施
(園内) 行事及びクラブ活動並びに誕生会毎月

5 佐倉地域包括支援センター

地域包括ケアシステム構築に向け、佐倉・南部圏域合同で在宅医療・介護連携推進地域会議を開催し、医療・介護連携の推進、生活体制整備・認知症総合支援事業を推進している。

新規総合相談件数は減少しているが、継続支援は大きく増加している。指定介護予防支援新規利用者数は前年に比べ1割程度減少、新規利用者数はほぼ変わらない。

1 利用規模 佐倉市佐倉圏域(高齢化率 36.7% 高齢者数 10,299人)

2 職員数 正職7名 パート2名

3 利用状況

指定介護予防支援月別利用者数 年間延べ 3,963名(前年度 4,278名)

新規利用者数 年間延べ 113名(前年度 108名)

総合相談件数 年間延べ 748件(前年度 792名)

継続支援件数 年間延べ 3,249件(前年度 2,287件)

6 佐倉はくすい保育園

認可保育園は6年を経過し、登録児童も59名となり、3月には卒園生12名を小学校へ送り出すことができた。事業所内保育は高齢者施設、保育園の職員不足解消に寄与し、延1017名が利用した。病後児保育においては、利用人数は少ないが、体制を整えて待機している。平成27年度7月より実施した、一時預かり保育事業のニーズは0, 1, 2歳に多いが、定員枠内の利用に限られるため、利用者数は少ない。今年度は当園の特徴である、高齢者施設との交流の取り組みはコロナ禍のもと、ほとんど実施できなかった。はくすい農園での苺狩り体験や通所型サービス利用者の収穫した野菜等を調理する体験により、食への意欲と関心に繋ぐことができた。

1 認可保育所

- (1) 利用規模 認可保育事業 (定員) 60名 病後児保育事業 (定員) 3名
- (2) 保育職員会議 全12回
- (3) 利用状況

認可保育事業 登録児童 59名 年間利用延利用人数 11,752名
(4月20~5月31 休園 特別保育のみ実施)

一時預かり保育事業 登録児童 4名 年間延べ利用者人数 8名

病後児保育 事前面接件数 12件 (昨年32件)

年間利用人数 1名 (昨年18名) 延利用日数 1日 (19日)

2 地域子育て支援センター

- (1) 実施内容 ミニ講座、身体測定、誕生会 1回/月
園庭開放、育児相談
- (2) 利用状況 延べ利用人数 467名 (526名)
相談件数 46件 (42件)

3 事業所内保育

- (1) 利用規模 定員9名
- (2) 利用状況 月極め利用 1名 一時利用 22名
年間延利用人数 1017名 (昨年1231名)
平均 3.3名/日 (昨年4.0名/日)

7 臼井はくすい保育園

順調に登録児童も増え3月には47名となった。新型コロナウイルスのため4/20~5/31は休園となり、利用園児は特別保育申請者のみであった。6月は自粛要請となり、通常に戻ったのは7月となった。主だった行事は中止や縮小にとどまった中、園内では感染予防に努めると共に、保護者への協力を求め、陽性者が出ることもなく過ごすことができた。

一時預かり保育事業では、ニーズが多い未満児の0歳児、2歳児に空きがあったため、利用者受入が増加した。

1 認可保育所

- (1) 利用規模 認可保育事業 (定員) 50名
- (2) 保育職員会議 全12回
- (3) 利用状況

認可保育事業 登録児童 47名 年間利用延利用人数 8,803名

一時預かり事業 登録児童 6名 年間延べ利用者人数 47名